

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千八百三十八號

海軍大臣官房

昭和九年七月十二日(木)

○令 達

官房第一六七一號ノ九

昭和九年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和九年六月十九日

歳出臨時部 海軍大臣

官房第三一三一號 常分ノ間海軍航空隊又ハ飛行機搭載中ノ艦船ニ在ル定	事務費	ライ	會計科目 電信略號
	建築費	ラハ	
	機械費	ラニ	
	吳島小島揚 塔設備費	ラロ	
(營繕費)			
事	項	支 給 額	
一 飛行機又ハ飛行船操縦若 ハ機上作業ノ定員ノ配置 ニ在ル者ト同一ノ勤務ニ 服スル者		航空加俸支給規則ニ定 ムル第一表月額甲	
二 練習航空隊ニ於ケル海軍 豫備員ニシテ同隊學生ニ 準ジ航空機搭乘ヲ修得ス ル者			
(別表)			
附 則			
本號ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス 昭和六年官房第三七〇九號ハ之ヲ廢止ス			
昭和九年七月十二日			
海軍大臣			

海軍公報 (部内限) 第千八百三十八號 昭和九年七月十二日

三七一

1393

一 海軍豫備員ニシテ整備分隊士又ハ機關科尉官タル飛行隊士ノ職務ニ在ル者ト同一ノ勤務ニ服スル者
 二 練習航空隊ニ於ケル海軍豫備員ニシテ同隊學生ニ準シ整備術ヲ修得スル者
 航空加俸支給規則ニ定ムル第一表月額乙

○通牒

教育第五〇號ノ二一

昭和九年七月九日

海軍省 教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件通知

昭和九年七月第二十一回無線電信遠距離受信檢定信文送信要目左記ノ通記

信文 東京海軍無線電信所 送信

番號 送信日時(速度(二分間)) 信文修正

一	七月五日午後一時二分	八五	
二	同 一時五分	八五	
三	同 一時八分	八五	
四	同 一時十二分	八五	
五	同 一時十五分	八五	
六	同 一時十九分	八五	
七	同 一時二十二分	八四	
八	同 一時二十六分	八五	
九	同 一時二十九分	八四	
一〇	同 一時三十二分	八四	
一一	同 一時三十五分	八五	
一二	同 一時三十九分	八四	
一三	同 一時四十二分	八五	
一四	同 一時四十五分	八五	
一五	同 一時四十八分	八四	本文八語十字目不正

一六同 一時五十二分	八五
備 一、天 候 快晴 考 一、送信状態 良好	
經給第四三號	
昭和九年七月十二日	
海軍省 經理局	
關係各廳御中	
海軍豫備員ニ對スル航空加俸ニ關スル 件通牒	
首題ニ關シ今般官房第三一三一號ヲ以テ令達セラレ候 結果昭和八年經給第一四六號通牒ノ件ハ自然消滅ノ儀 ト承知相成度	
○ 辭 令	
軍令部出仕海軍機關少佐 松尾 祐一	
第三部勤務ヲ命ス(特許軍令部)	

海軍公報(部内限) 第千八百三十八號 昭和九年七月十二日

三七三

1395

(部 内 限)

海軍公報

(部内限) 第千八百三十九號

昭和九年七月十三日(金)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第三一五〇號

昭和四年官房第二九三四號中左ノ通改正ス

昭和九年七月十三日

海 軍 大 臣

本文ヲ左ノ如ク改ム

當分ノ間資金前渡官吏ノ在職スル艦船部隊又ハ學校等ニ勤務スル軍人軍屬ニシテ休暇ノ爲俸給支給定日ニ當該勤務廳ニ在ラザルモノ竝ニ在泊中ノ艦船乗員ニシテ其ノ乗組艦船出港ノ爲俸給支給定日ニ航海中ノモノニハ現行規定ニ拘ラズ其ノ月二十一日俸給ヲ支給スルコトヲ得
左記加俸及手當ハ俸給ト同時ニ之ヲ支給スルコトヲ得

(海軍會計法規類集中卷一五三ノ四頁參照)

○ 辭 令

上海へ出張ヲ命ス

海軍大佐 井上 保雄

滿洲國へ出張ヲ命ス(以上^{七七}海軍省)

海軍中佐 大野 善隆

○ 雜 款

○郵便物發送先變更(六月二十二日)
本棚參照)

自 今

横 須 賀

海軍公報(部内限) 第千八百三十九號 昭和九年七月十三日

三七五

1396

(限 内 部) 1397

海軍公報 (部内限) 號外

昭和九年七月十三日(金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第二四三四號ノ三

昭和九年度新造雜役船ノ船種、公稱番號及所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和九年七月十三日

海 軍 大 臣

同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	カ ツ タ 「 九 米 」 第 七 三 號	船 種 公 稱 番 號	所 屬	定 數 別	製 造 所	契 約 納 入 場 所	納 入 豫 定 期 日	備 考
第 七 六 號	第 七 七 號	第 七 六 號	第 七 五 號	第 七 四 號		海軍通信學校	橫須賀海兵團	公稱第三五九號 代船(定數) 公稱第六六二號 代船(定數)	三菱長崎造船所	佐世保 海軍工廠	昭和九年 十二月 二十六日	
定數補充	臨時附屬											
昭和十年二 月二十八日												

海軍公報 (部内限) 號外

海軍公報 (部内限) 號外

同 (同)	同 (同)	同 (同)	傳 馬 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)	同 (同)
第三〇五號	第三〇四號	第三〇五號	第三〇三號	第七九號	第七八號	第七七號	第七六號	第七五號	第七四號	第七三號	第七二號	第七〇號	第七六號
橫須賀海軍航空隊	旅順要港部	吳海軍港務部		佐世保海兵團			吳海兵團			海軍砲術學校		海軍通信學校	
定數補充	公稱第二七號代 船(定數)	公稱第五二六號 代船(定數)	公稱第四一五號 代船(定數)	公稱第三七一號 代船(定數)	公稱第三六二號 代船(定數)	公稱第六六七號 代船(定數)	公稱第三四六號 代船(定數)	公稱第三〇五號 代船(定數)	公稱第三〇四號 代船(定數)	公稱第三〇三號 代船(定數)	定數補充		
墨田川造船所			三菱長崎造船所										
海軍工廠		橫須賀	佐世保									海軍工廠	
昭和九年十一月三十日	昭和九年六月三十日	昭和九年三月十日	昭和十年二月二十八日										

海軍公報 (部内限) 號外

重 油 (三百噸) 船	同 (同)	同 (六米)	同 (同)	同 (同)	同 (七米)	同 (同)
第三〇六號	第三〇六號	第三〇六號	第三〇五號	第三〇五號	第三〇五號	第三〇五號
橫須賀海軍需部	吳海軍航空隊	東京海軍航空隊 (假稱)	橫須賀海兵團		橫須賀海軍航空隊	
公稱第一六八九 號代船(定數)	定數補充	臨時附屬	公稱第七四七號 代船(定數)	公稱第五九〇號 代船(定數)	定數補充	
國館船渠會社	墨田川造船所					
海軍工廠			橫須賀			
昭和十一年一月三十一日	昭和九年二月二十八日	昭和九年二月二十六日	昭和九年二月二十六日	昭和九年二月二十六日	昭和九年二月二十六日	昭和九年二月二十六日
	開設ノ上					

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千八百四十號

海軍大臣官房

昭和九年七月十四日(土)

1400

○ 辭 令

海軍法務官 山本 孝治

驅逐艦深雪及電觸衝事件查問會委員ヲ免ス

樋口 芳包

驅逐艦深雪及電觸衝事件查問會委員ヲ命ス(以上 海軍省)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

第三潜水戰隊司令部宛

七月二十三日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

同 二十八日迄ニ 同 舞 鶴

其ノ後ハ 第四艦隊司令部ニ同ジ

○ 訂 正



本月十日通牒欄海軍大演習特設司令部事務開始中第八戰隊司令部記事ノ欄「七月十五日」ヲ「七月二十日」

ニ、第三潜水戰隊司令部ノ同欄「七月二十日」ヲ「七月二十四日」ニ孰モ訂正ス

海軍公報(部内限) 第千八百四十號 昭和九年七月十四日

三七七

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十一號

昭和九年七月十六日(月)

海軍大臣官房

○ 辭令

海軍機關大尉 田中 滋
 昭和九年海軍大演習部隊編成中第一防備隊分隊長被
 仰付(其の海軍省)

○ 雜款

○ 郵便物發送先
 聯合艦隊司令部、第一艦隊司令部、軍艦金剛、霧島、
 第一戰隊司令部、軍艦扶桑、日向、第七戰隊司令部、
 軍艦長良、五十鈴、名取、第一水雷戰隊司令部、軍
 艦川内、第二十三驅逐隊(菊月、夕月、望月、三日
 月)、第五驅逐隊(松風、春風、旗風、朝風)、第二
 十九驅逐隊(疾風、追風、夕風、朝風)、第三十驅
 逐隊(睦月、卯月、如月、彌生)、第一航空戰隊司
 令部、軍艦赤城、第二驅逐隊(沖風、澤風、矢風)、
 特務艦鳴戸宛
 七月十九日迄ニ到達見込ノモノハ 大分縣別府

同 二十五日迄ニ 同 鹿兒島縣志布志
 八月 八日迄ニ 同 高知縣宿毛
 同 十三日迄ニ 同 三重縣神社
 同 十九日迄ニ 同 千葉縣館山
 其ノ後ハ 横須賀

左記ニ依リ假設電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ「ハ
 ホ」ノ指定ヲ要セズ

自 七月十六日 別府
 至 同 十九日 志布志
 自 同 二十五日 宿毛
 至 同 二十七日 神社
 自 同 二十八日 館山
 至 同 二十九日 同
 自 同 三十日 同
 至 同 三十一日 同

第二艦隊司令部、軍艦鳥海、摩耶、高雄、愛宕、第
 六戰隊司令部、軍艦青葉、衣笠、古鷹、第二水雷戰
 隊司令部、軍艦那珂、第六驅逐隊(響、雷)、第十
 二驅逐隊(白雲、叢雲、薄雲)、第十驅逐隊(曉、
 狹霧、漣)、第十一驅逐隊(初雪、白雪)、第二潜水
 戰隊司令部、軍艦山良、迅鯨、第十九潜水隊(伊五

海軍公報(部内限) 第千八百四十一號 昭和九年七月十六日

三七九

1401

八、伊五七、伊五六)、第二十九潜水隊(伊六四、伊六一、伊六二)、第三十潜水隊(伊六六、伊六七、伊六五)宛

七月十九日迄ニ到達見込ノモノハ 大分縣別府

同 二十五日迄ニ 鹿兒島縣志布志

八月 八日迄ニ 高知縣宿毛

同 十三日迄ニ 三重縣神社

同 十九日迄ニ 千葉縣館山

其ノ後ハ 横須賀

左記ニ依リ假設電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ「ハ」ホ」ノ指定要セズ

自七月十四日 別府

自同十九日 志布志

自同二十五日 宿毛

自同二十七日 神社

自同三十日 館山

自同十五日 館山

軍艦春日宛

自今

横須賀郵便局氣付

○深雪ノ残務整理ニ必要ナル證憑書類中被服、糧食關係ハ自今白雲宛送付セラレ度其ノ他ハ從前通(第十一驅逐隊)

(七月五日本欄参照)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十二號

海軍大臣官房

昭和九年七月十七日(火)

本紙引換ノ上舊紙ハ燒却相成度

○通牒

軍需燃第一一〇號

昭和九年七月十七日

海軍省軍需局

關係各廳御中

大演習用航空揮發油ニ關スル件通知

本人大演習ニ參加スル航空機中左記ハ假稱航空特號揮發油ヲ使用スル要アリ其ノ供給ニ關シテハ昭和九年海軍大演習用艦營需品及燃料ノ取扱方ニ關スル官房號ニ依リ定メラレタルモ其ノ詳細ハ左ノ通取扱相成度

- 一、演習用航空燃料ハ航空三號揮發油及「ベンゾール」ヲ以テ告達セラルルモ航空三號揮發油ノ豫算ヲ以テ假稱航空特號揮發油ヲ受ケ込ムコトヲ得
- 二、左記飛行機ハ航空三號揮發油ノ代リニ假稱航空特號揮發油ヲ使用スル要アルヲ以テ所屬長官ヨリ艦船部隊ニ告知セラルル場合ニハ告知書及軍需部へ

ノ通知書ニハ記事欄ニ(特號)ト朱書ノコト
 三、艦船部隊ヨリ軍需部ニ請求スル際ハ請求票記事欄ニ(特號)ト朱書ノコト、此ノ場合現品ハ假稱航空特號揮發油ヲ供給ス

四、假稱航空特號揮發油ハ艦船部隊ヨリノ請求ヲ俟テ各軍需部ヨリ徳山軍需支部ニ要求シ之ニヨリ生産ノ上送付ヲ受クルモノナルニ依リ豫報無ク請求セラルルモ搭載ノ間ニ合ハザルコトアルベシ受込豫定期日及其ノ量ヲ成ルベク速ニ之ヲ受込マントスル軍需部ニ豫報アリ度爾後變更ノ場合亦同ジ
 五、各軍需部ニ於ケル整理上ノ品名ハ航空三號揮發油トス

記

- イ 九四式水上偵察機
- ロ 九〇式二號偵察機二型及三型
- ハ 九〇式二號飛行艇
- ニ 九一式飛行艇

海軍公報(部内限) 第千八百四十二號

昭和九年七月十七日

三八一

1403

(ホ)九〇式艦上戦闘機
(ハ)八九式艦上攻撃機

○ 辭 令

嘱託 城島清一郎

上海へ出張ヲ命ス(請海軍省)

海軍豫備少尉 宇留島篤弘

同 藤田義直

同 森彦人

同 山本菊之助

同 駒林力

同 山田常三

同 平石智光

同 坂元正信

同 篠塚實

同 塩味常吉

同 齋藤紅魚司

同 奥田真一

同 安齋三良

同 海軍豫備機關少尉 猪股定

(各通)

右勤務召集ヲ解除ス(請同)

同 龍光夫

右勤務召集ヲ解除ス(請同)

同 三原一男

○昭和九年海軍大演習部隊編成中左ノ通被仰付

海軍中尉 渡邊初彦

同 石川直一

同 西原晃

第一航空隊附 海軍少尉 越智武雄

第四艦隊司令附 海軍豫備少尉 中鉢道男

第一航空隊附 同 秋山一雄

第三航空隊附 同 藤井三郎

第一航空隊附 同 日暮朝

第三航空隊附 同 中村源三

海軍豫備少尉 寺本巖

同 大内修助

(各通)

横須賀鎮守府附被仰付(以上^{十六日}同)

(防備隊) 海軍大尉 鈴木 武
(各通) 同 橋田 鼎道

昭和九年七月二十五日ヨリ八月二十日迄臨時聯合艦隊司令部附被仰付(十七日同)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先變更(七月^{十六日}本欄參照)

第一航空戰隊司令部、軍艦赤城、第二驅逐隊(沖風、澤風、矢風)宛

七月十九日迄ニ到達見込ノモノハ 大分縣別府
同 二十八日迄ニ 宮崎縣細島
其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ

○ 正誤 正誤

昨十六日本欄深雪ノ被服、糧食關係書類ノ件照會中
「白雲」ハ「白雪」ノ誤

横須賀鎮守府附被仰付

同 中野 馨

海軍豫備少尉

小川 威

同

永松 熊一

同

星子 直明

同

猪口 猛夫

同

田口 昂

同

村上 義武

同

高村 信

同

都竹 慶藏

同

山内 達雄

同

松井 孝之助

同

石梶 太郎

同

和氣 幸夫

同

巖谷 二三男

海軍豫備機關少尉

稻葉 好郎

同

溜淵 稔

同

西田 伸

同

藤井 益次郎

同

佐々木 俊郎

同

岡本 貞一

(各通)

吳鎮守府附被仰付

同 岡田 末信

海軍豫備少尉

山路 巳吉

海軍豫備機關少尉

龟多 幸太郎

右勤務召集ヲ解除ス(以上共海軍省)

○昭和九年海軍大演習部隊編成中左ノ通被仰付

海軍大尉 井上 士郎

第八戰隊司令部附兼參謀

同 山本 正

第四艦隊司令部附

同 中島 湊

第九戰隊司令部附兼參謀(以上同)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十四號

海軍大臣官房

昭和九年七月十九日(木)

○ 令 達

官房第三二四三號

艦管需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和九年七月十九日

海軍大臣

機 關 長 主 管

艦船部隊名	類 別	品 名		備品第一類	備品第十二類
		數 量	名		
戰艦 妙高型、高雄型巡洋艦	一	本主管	弁修理機	一	一
航空母艦 赤城、加賀ノミ	一	本主管	弁修理機	一	一
古鷹型、青葉型巡洋艦	一	本主管	回轉計甲	一	三
二等巡洋艦 (平戸、矢矧ヲ除ク)	一				
練習艦 (深雪ヲ除ク)	一				
吹雪型 (除ク)	二				
初春型驅逐艦					
航空母艦 (龍驤、鳳翔ノミ)	一				
峯風型、神風型、陸月型驅逐艦	一				
水上機母艦	一				
潛水艦	一				
海防艦 (吾妻、日進ヲ除ク)	一				
砲台艦 (吾妻、日進ヲ除ク)	一				
桃型驅逐艦 (榎、梨、竹ヲ除ク)	一				
若竹型驅逐艦	一				
一等潛水艦 「エル」三型、「エル」	一				
四等潛水艦	一				
掃海艇 (第七號、第八號、第九號)	一				
特務艦 (朝日、敷島、富士、播磨)	一				
海軍防備隊 (初矢、石廊ヲ除ク)	一				
航空要港部	一				
旅順	一				

○ 辭 令

海軍公報(部内限) 第千八百四十四號

昭和九年七月十九日

三八七

○昭和九年海軍大演習部隊編成中左ノ通被仰付

- 第四艦隊司令部附兼參謀 海軍大尉 山本 祐二
- 第四艦隊參謀兼副官 同 扇 一登
- 第五戰隊參謀 海軍少佐 鹿岡 圓平
- 第八戰隊參謀 同 松永 敬介
- 第九戰隊參謀 同 高馬 正義
- 第十二戰隊參謀 海軍大尉 柴田 文三
- 第十二戰隊司令部附兼參謀 同 中野 政知
- 第三水雷戰隊參謀 海軍少佐 土井 美二
- 第四水雷戰隊參謀 同 若槻 龍三
- 第一根據地隊參謀 同 佐藤 毅
- 同 前田 清馬
- 第一航空隊飛行隊長(以上其前海軍省)

○雜款

○第二十一水雷隊(千鳥、真鶴)行動豫定
 地名 着 發
 舞鶴 七月二十二日
 佐世保 七月二十一日

○郵便物發送先

- 第三驅逐隊(島風、夕風、灘風)宛
 七月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀
 同 二十九日迄ニ 同 細島
 同 三十一日迄ニ 同 白杵
 其ノ後ハ 第三水雷戰隊司令部ニ同ジ
- 第二十一水雷隊(千鳥、真鶴)宛
 七月二十日迄ニ到達見込ノモノハ 新舞鶴
 其ノ後ハ 佐世保

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十五號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十日(金)

○通牒

教育第五〇號ノ二二一

昭和九年七月十九日

海軍省教育局

關係各應御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料

ノ件通知

昭和九年七月第二十二回無線電信遠距離受信檢定信文
送信要目左記ノ通

記

信文 佐世保海軍無線電信所 送信

番號 送信日時 速度(分間) 信文修正

一	七月二十二日 午後一時二分	九四	
二	同 一時五分	九六	
三	同 一時十分	九五	
四	同 一時十四分	九五	
五	同 一時十八分	九五	
六	同 一時二十一分	九五	
七	同 一時二十五分	九五	
八	同 一時二十八分	九五	
九	同 一時三十二分	九五	
一〇	同 一時三十六分	九五	
一一	同 一時三十九分	九四	
一二	同 一時四十三分	九五	
一三	同 一時四十六分	九四	
一四	同 一時五十分	九四	

海軍公報(部内限) 第千八百四十五號

昭和九年七月二十日

三八九

<p>一五 同 一時五十四分 九五</p>	<p>一六 同 一時五十八分 九五</p>	<p>備 一、天 候、曇 考 一、送信状態 良好</p>	<p>昭和九年海軍大演習特設部隊事務開始左ノ通 昭和九年七月十九日 海軍大演習統監部</p>	<p>第一通信隊ハ七月二十三日ヨリ八月二日マデ佐世保海兵團ニ於テ事務取扱ヲ開始ス</p>	<p>○訓令 海軍主計中佐 爲本 博篤 兼テ臨時調査課ニ於テ服務スヘシ(モリ海軍大臣)</p>	<p>○辭令 海軍大佐 山本 弘毅 軍艦伊勢昭和九年海軍大演習部隊第四艦隊ニ編入ノ</p>
<p>問同艦長在職中特別俸ヲ賜フ</p>						
<p>○昭和九年海軍大演習部隊編成中左ノ通被仰付</p>						
<p>(各通) 海軍機關中尉 市原 保 増田 三千郎</p>						
<p>横須賀海軍航空隊附 同 福原 穰</p>						
<p>館山海軍航空隊附 同 本田 秀夫</p>						
<p>大村海軍航空隊附 同 中村 善一</p>						
<p>館山海軍航空隊附 同 坂野 鶴一</p>						
<p>(各通) 同 中尾 忠雄</p>						
<p>霞ヶ浦海軍航空隊附 同 小中 茂雄</p>						
<p>(各通) 海軍豫備機關少尉 湯佐 泰明</p>						
<p>同 梅香 三郎</p>						
<p>横須賀鎮守府附被仰付 小野 龍馬</p>						
<p>第四艦隊ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス</p>						
<p>但シ報酬月額百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス (以上モリ海軍省)</p>						

○ 雜 款

○ 懲 罰

懲 罰 言 渡 書

○ 正 誤
本月十七日辭令關中寺本巖、大内修助ノ辭令文「横須賀鎮守府附被仰付」ハ「横須賀防備隊附被仰付」ノ誤

海軍公報(部内限) 第千八百四十五號

昭和九年七月二十日

三九一

1412

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十六號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十一日(土)

○ 辭 令

海軍大尉 井 上 勇
昭和九年海軍大演習部隊編成中第三航空隊通信長兼
分隊長被仰付

同 芳 根 廣 雄
昭和九年海軍大演習部隊編成中佐世保海軍航空隊通
信長兼分隊長被仰付

同 千 葉 愛 爾
昭和九年海軍大演習部隊編成中第三航空隊通信長兼
分隊長被仰付置候處被免(以上^七日海軍省)

○ 雜 款

○郵便物發送先
第九戰隊司令部、軍艦木曾、北上宛
七月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 横 須 賀
其ノ後ハ 第四艦隊司令部ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第千八百四十六號 昭和九年七月二十一日

三九三

1413

海軍公報

(部内限) 第千八百四十七號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十三日(月)

○ 令 達

官房第三三〇四號

本年官房第三〇九四號中資金區分ノ欄「常磐」ノ下

ニ「白鷹」ヲ加フ

昭和九年七月二十三日

海 軍 大 臣

(参照) 本年官房第三〇九四號ハ昭和九年海軍大演習特

設部隊ノ經費支拂ニ要スル資金前渡官吏竝ニ取

扱區分ノ件ナリ

○ 通 牒

軍需兵四第一〇五七號

昭和九年七月二十三日

海軍艦政本部長
海軍省軍需局長

海軍公報(部内限) 第千八百四十七號

昭和九年七月二十三日

三九五

各海軍軍需部長
舞鶴要港部軍需部長
各海軍工廠長
舞鶴要港部軍需部長

廢兵器保管轉換ノ件通牒(機關長主管)

爾今左記廢兵器ハ造兵材料トシテ横須賀海軍工廠ニ保
管轉換方取計相成度

記

一、二式安全燐解栓 各種 全部
附 記

昭和七年十月二十五日軍需兵第二〇四五號ハ自然消
滅ノ儀ト承知相成度

○ 辭 令

海軍大尉 土師 喜太郎
昭和九年海軍大演習部隊編成中多摩分隊長被仰付置
候處被免(海軍省)

編ニテ

三九五

摩耶乘組被仰付	海軍豫備少尉	岡 幸 昌	阿武隈乘組被仰付	同	永堀 喜美藏
北上乘組被仰付	同	小 池 榮	神通乘組被仰付	同	久保田 好治
鳥海乘組被仰付	同	小 林 清	北上乘組被仰付	同	杉 本 明次
伊勢乘組被仰付	同	森 安 榮	加古乘組被仰付	海軍豫備機關少尉	稻 葉 好郎
長良乘組被仰付	同	酒 井 忠 弘	榛名乘組被仰付	同	溜 淵 稔
大井乘組被仰付	同	平 野 萬	第十九驅逐隊附被仰付	同	西 田 伸
伊勢乘組被仰付	同	小 川 威	(各通)	同	藤 井 益次郎
青葉乘組被仰付	同	永 松 熊 一	第二十驅逐隊附被仰付	同	佐々木 俊郎
名取乘組被仰付	同	星 子 直 明	第十九驅逐隊附被仰付	同	岡 本 貞 一
扶桑乘組被仰付	同	猪 口 猛 夫	第二十驅逐隊附被仰付	同	岡 田 末 信
伊勢乘組被仰付	同	田 口 義 武	第二十驅逐隊附被仰付	同	植 松 重 次郎
由良乘組被仰付	同	村 上 義 武	北上乘組被仰付	同	織 田 巖
(各通)	同	高 村 慶 信	第八驅逐隊附被仰付	同	飯 塚 市 郎
榛名乘組被仰付	同	都 竹 慶 藏	比叡乘組被仰付	同	
神通乘組被仰付	同	山 内 達 雄			
阿武隈乘組被仰付	同	松 井 孝 之 助			
扶桑乘組被仰付	同	石 梶 太 郎			
大井乘組被仰付	同	和 氣 幸 夫			
古鷹乘組被仰付	同	巖 谷 三 三 男			
多摩乘組被仰付	同	水 谷 保			

第七驅逐隊附被仰付 同 矢野久太郎

木曾乘組被仰付 同 小野仁

(各通) 同 池田武

第七驅逐隊附被仰付(以上^{七月二十三日}海軍省) 中野馨

○雜款

○郵便物發送先

第四水雷戰隊司令部、軍艦神通、第十九驅逐隊(敷波、綾波、浦波)、第二十驅逐隊(東雲、磯波、吹雪)宛

七月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 吳 第四艦隊司令部ニ同ジ 其ノ後ハ

第十八潜水隊(伊五三、伊五四、伊五五)宛 當分ノ間 神戸海軍監督官事務所

海軍公報(部内限) 第千八百四十七號 昭和九年七月二十三日

三九七



(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十八號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十四日(火)

○ 通 牒

人秘第三三號ノ二五

昭和九年七月二十四日

海軍省 人事局長

各廳長殿

從軍記章令該當者上申移牒手續ニ

關スル件通牒

今回海軍省告示第十一號(昭和九年七月二十三日官報第二二六七號掲載)ヲ以テ今次事變從軍記章令該當者上申移牒手續發布セラレ候處同手續第二條該當者ハ海軍功績調査規程ニ依リ海軍大臣へ功績具申又ハ移牒濟ノ者ノミニ適用セラルル趣旨ニ有之候條昭和七年十月十三日人秘第三三號ノ四ニヨリ無功績者トシテ通知セラレタル者等右以外ノ者ニシテ從軍記章令ニ該當スト認メラルル者ニ對シテハ此ノ際調査書ノ進達ヲ要スル義ニ有之候

○ 雜 款

○ 旗艦指定

第四艦隊司令長官ハ本月二十日第四艦隊旗艦並ニ麾下各戰隊旗艦ヲ左記ノ通指定セリ

記

- 第四艦隊旗艦 伊 勢
- 第五戰隊旗艦 足 柄
- 第八戰隊旗艦 夕 張
- 第九戰隊旗艦 木 曾
- 第三水雷戰隊旗艦 阿 武
- 第四水雷戰隊旗艦 神 通
- 第三潜水戰隊旗艦 多 摩

○ 郵便物發送先

- 第一航空隊宛 八月 十日迄ニ到達見込ノモノハ 大村海軍航空隊
- 九月三十日迄ニ同 馬公防備隊
- 其ノ後ハ 第四艦隊司令部ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第千八百四十八號 昭和九年七月二十四日

三九九

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百四十九號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十五日(水)

○令達

官房第三三三三號

艦營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和九年七月二十四日

海軍大臣

航海長 主管

艦船名	種類	消耗品第二類		記事
		品名	枚	
軍艦、驅逐艦、潜水艦、水雷艇、掃海艇	※	教練運動要諸表	枚	本定數ハ定員ヲ置カザル第四豫備艇艇ヲ除ク
	※	故障檢定見張檢定成績諸表	枚	
	※	探能檢定見張檢定成績諸表	枚	
	※	成續諸表	枚	

○雜款

海軍公報(部内限) 第千八百四十九號

昭和九年七月二十五日

四〇一

○郵便物發送先

第三艦隊司令部、軍艦出雲、第二十七驅逐隊(菫、菱、葦)、第二十六驅逐隊(檜、栗、梅、柿)宛
 七月二十七日迄ニ到達見込ノモノハ 上
 八月五日迄ニ 同
 同十五日迄ニ 同
 其ノ後ハ 上
 海連順海

第四艦隊司令部、軍艦伊勢、第五戰隊司令部、軍艦足柄、羽黑、加古、第八戰隊司令部、軍艦夕張、龍田、第九戰隊司令部、軍艦木曾、大井、北上、第三水雷戰隊司令部、軍艦阿武隈、第三驅逐隊(島風、灘風、夕風)、第二十一驅逐隊(子日、初春)、第十二驅逐隊(皐月、文月、水無月、長月)、第四水雷戰隊司令部、軍艦神通、第七驅逐隊(曙、臘、潮)、第八驅逐隊(天霧、朝霧、夕霧)、第十九驅逐隊(浦波、敷波、綾波)、第二十驅逐隊(東雲、吹雪、磯波)、第三潜水戰隊司令部、軍艦多摩、第十七潜水隊(伊五一、伊五二)、第十八潜水隊(伊五三、伊五四、伊五五)、第二十六潜水隊(呂六〇、呂六一、呂六二)、第二十八潜水隊(伊五九、伊六〇、伊六一)

三、軍艦鳳翔、第十四驅逐隊（夕顔、菊、葵）、第二十一水雷隊（千鳥、真鶴）、軍艦能登呂宛
 自八月十一日迄ニ到達見込ノモノハ、大分縣佐伯
 同 二十一日迄ニ同 鹿兒島縣志布志
 同 三十日迄ニ同 大分縣佐伯
 九月二日迄ニ同 同 別府
 同日迄ニ同 同 德島縣小松島
 同日迄ニ同 同 三重縣神
 其ノ後ハ、大分縣佐伯
 左記ニ依リ假設無線電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ
 「ハホ」ノ指定ヲ要セズ
 自八月十一日 佐伯
 自同十四日 志布志
 自同二十一日 佐伯
 自同二十四日 別府
 自同三十一日 小松島
 自九月一日 神
 自同五日 社
 自同十日 佐伯
 自同十五日 佐伯
 自同二十日 佐伯

○航空關係書類ニ關スル件照會
 本艦飛行機搭載致候條爾後航空關係書類ニテ必要ナル
 モノハ他ノ航空關係各部ト同様本艦ヘモ送付相成度
 （出 雲 艦 長）

○正誤
 一昨二十三日通牒欄軍需兵四第一〇五七號宛名中各海
 軍工廠長ノ次「舞鶴要港部軍需部長」ハ「舞鶴要港部
 工作部長」ノ誤

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百五十號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十六日(木)

○辭令

右勤務召集ヲ解除ス(七月廿四日海軍省)

(各通)

海軍豫備少尉 川島 淳
海軍中尉 江村 日雄
同 宮田 晏
海軍豫備少尉 池上 力
昭和九年海軍大演習部隊編成中鎮海航空隊附被仰付
(七月十五日同)

○雜款

○第十四驅逐隊(夕顔、菊、葵)行動豫定

地名 着 發
新舞鶴 七月三十一日 七月三十日
佐伯 八月四日 八月四日
細島 八月四日

○郵便物發送先

第八戰隊司令部、軍艦夕張、龍田宛
七月二十七日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保
八月六日迄ニ 同 大分縣佐伯

第三航空隊宛
自今 佐世保鎮守府氣付

第十四驅逐隊(夕顔、菊、葵)宛
七月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ 新舞鶴
八月三日迄ニ 同 大分縣佐伯
其ノ後ハ 宮崎縣細島

第二十八潜水隊(伊六三、伊六〇、伊五九)宛
七月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保
同 三十一日迄ニ 同 大分縣佐伯
其ノ後ハ 第三潜水隊司令部ニ同シ

第一掃海隊(掃一、掃二、掃三、掃四、掃五、掃六)宛
自今 佐世保

○懲罰

懲罰特免告達書

海軍公報(部内限) 第千八百五十號

昭和九年七月二十六日

四〇三

海軍公報（部内限）第千八百五十號

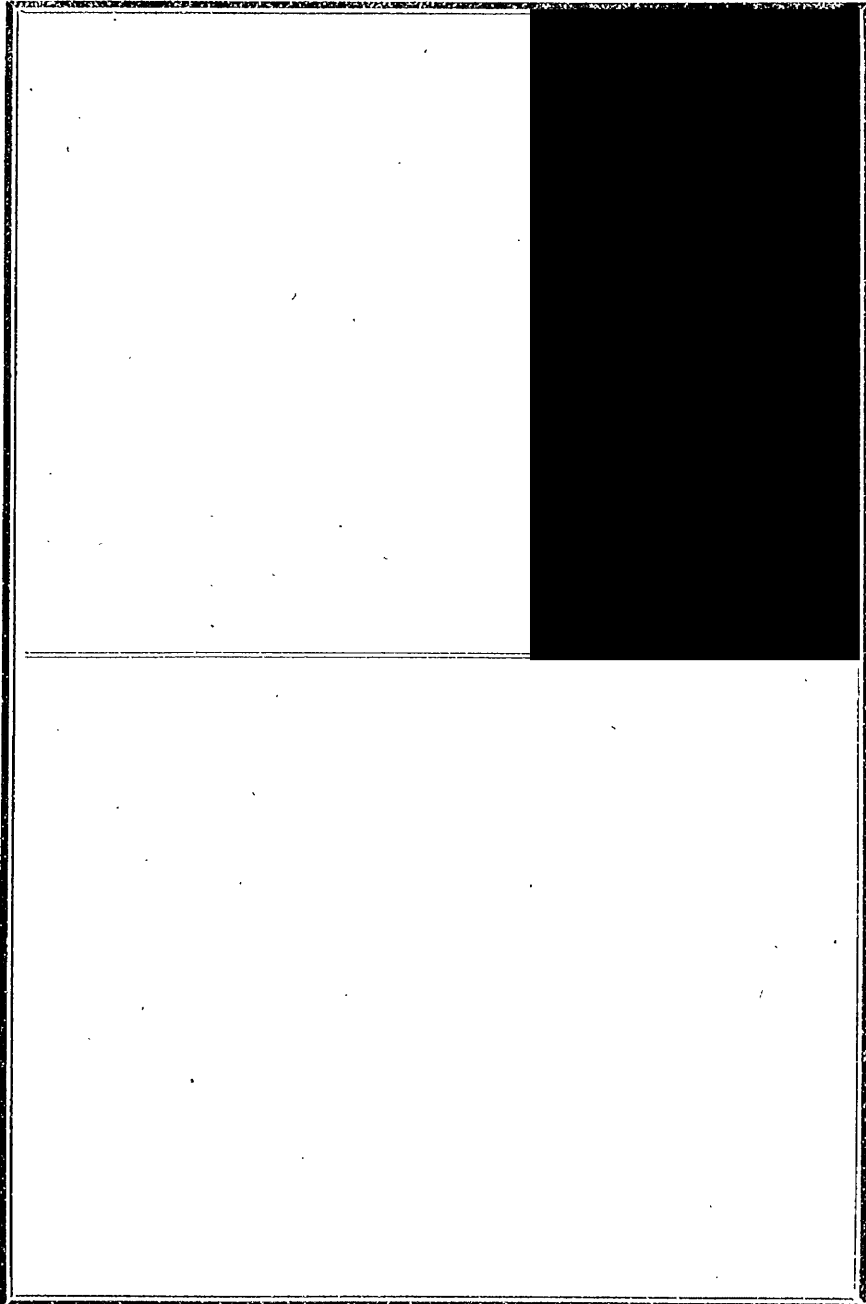
昭和九年七月二十六日

四〇四

1421

海軍公報(部内限) 第千八百五十號 昭和九年七月二十六日

四〇五



1422

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百五十一號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十七日(金)

○令 達

官房第三三五六號

昭和八年官房第五四八三號ニ依リ昭和九年度ニ於テ採用スベキ各種練習生ノ員數中左ノ通改正ス

昭和九年七月二十七日

海 軍 大 臣

表中普通科電信術ノ部志願兵ノ項ヲ左ノ如ク改ム

志 願 兵
昭和九年度ニ於テ掌電信兵志願ノ水兵及偵察練習生志願ノ航空兵トシテ採用シタル員數ヲ以テ之ニ充ツ

同 航空術ノ部操縦及偵察ノ項ヲ左ノ如ク改ム

操縦 (採用豫定者)	一七〇	一四五	一五〇	四六五
偵察 (採用豫定者)	八〇	七〇	六五	二一五

○雜 款

○郵便物發送先

第五戰隊司令部、軍艦足柄、羽黒、加古宛

八月 五 日迄ニ到達見込ノモノハ 佐 柁 築 伯

同 八 日迄ニ 同 第四艦隊司令部ニ同ジ

其ノ後ハ 第四艦隊司令部ニ同ジ

第七驅逐隊(潮、曙)宛

自今 第四水雷戰隊司令部ニ同ジ

驅逐艦隴宛

八月 一 日迄ニ到達見込ノモノハ 横 須 賀

其ノ後ハ 第四水雷戰隊司令部ニ同ジ

第十一掃海隊(掃一三、掃一四)宛

七月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 吳 佐 世 保

其ノ後ハ

○判決

判 決

海軍公報(部内限) 第千八百五十一號 昭和九年七月二十七日

四〇七

海軍公報（部内限）第千八百五十一號 昭和九年七月二十七日

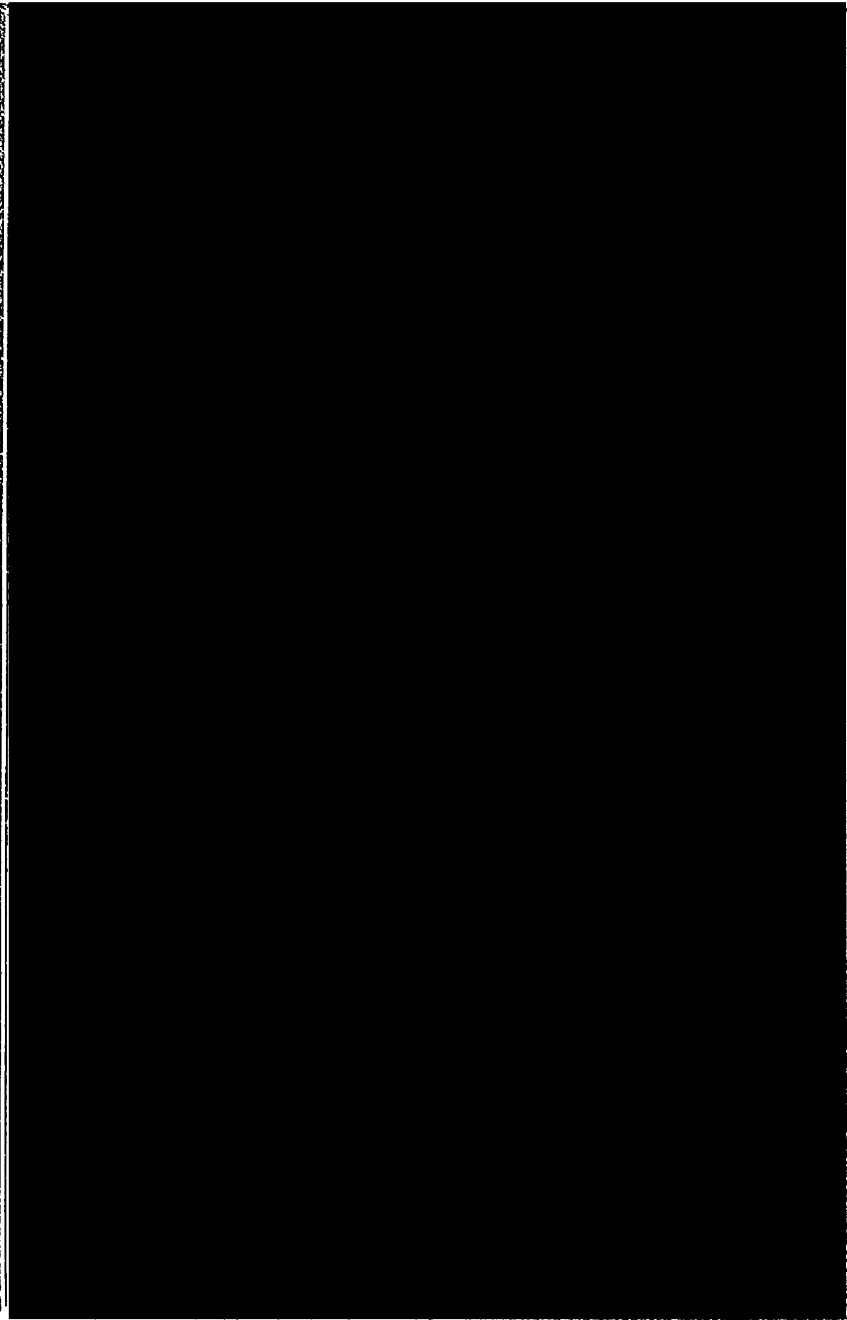
四〇八

1424

海軍公報（部内限）第千八百五十一號

昭和九年七月二十七日

四〇九

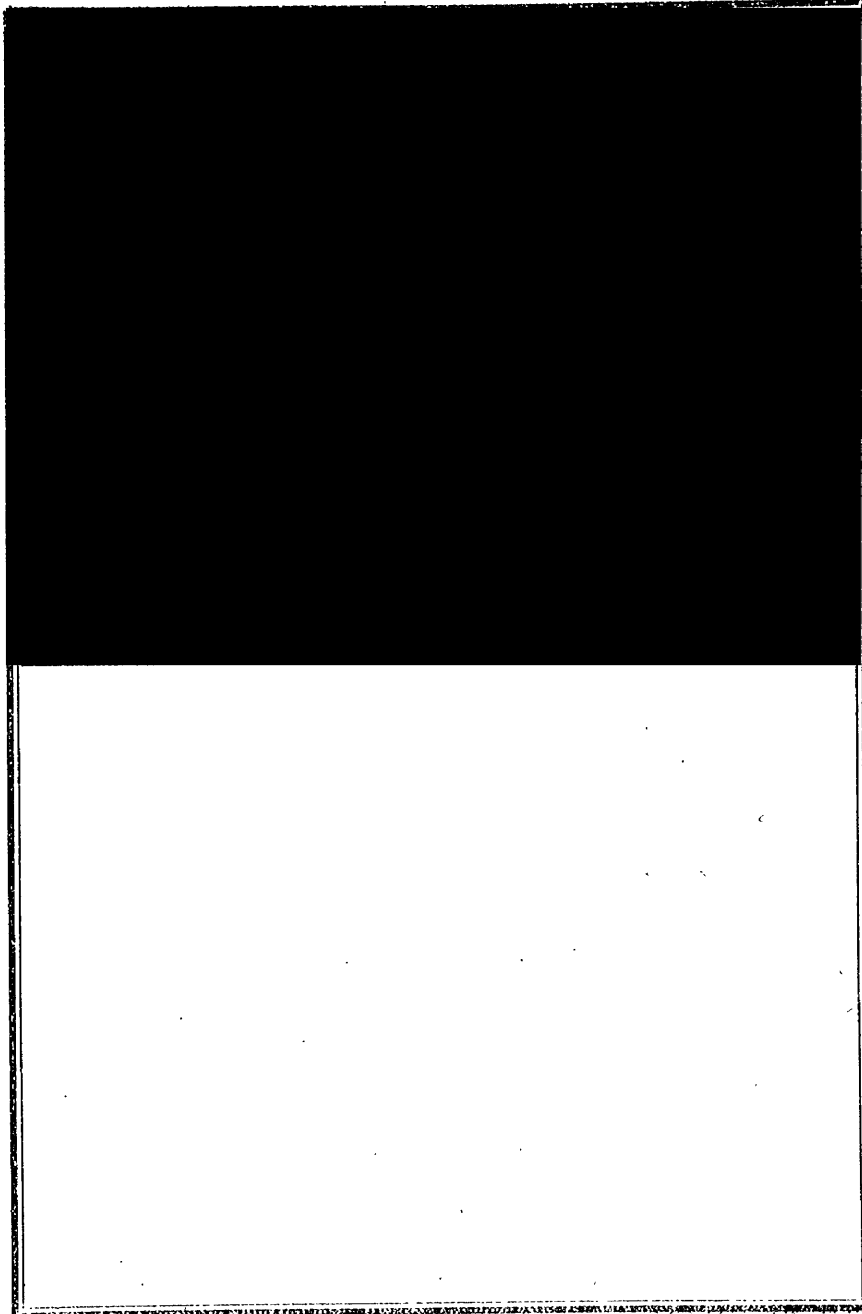


1425

海軍公報(部内限) 第千八百五十一號

昭和九年七月二十七日

左
〇



1426

(限 内 部)

1427

海軍公報(部内限)號外

昭和九年七月二十七日(金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第一一號ノ四三

昭和九年七月二十七日

海 軍 大 臣

各鎮守府司令長官(殿)
舞鶴要港部司令官(殿)

兵器簿ノ件 通達

各艦船兵器簿砲術長主管之部中左ノ通改正ス

記

一追加ノ部

類別		追 加		事 項		記 事
品 名	數 稱	數	量	數	量	
四十五口徑四十糎砲射表	冊					
四十五口徑三十六糎砲射表	冊					

海軍公報(部内限)號外

砲ノ部														
四十五口徑十二種砲射表	四十五口徑十二種高角砲射表	四十口徑十二種七高角砲射表	五十口徑十二種七砲射表	四十口徑十四種砲射表	五十口徑十四種砲射表	十五種迫撃砲射表	四十口徑十五種砲射表	四十五口徑十五種砲射表	五十口徑十五種砲射表	十五種五砲射表	四十五口徑二十種砲射表	五十口徑二十種砲射表	五十口徑二號二十種砲射表	四十口徑二十五種砲射表
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
<p>各艦備砲ニ對スル當 該射表 戰艦、一等巡洋艦及 航空母艦各砲種毎ニ 二冊宛、其ノ他八一 冊宛</p>														
<p>記入個所ハ砲身附屬具ノ末尾</p>														

海軍公報 (部内限) 號外

諸要具		砲術科	類別	一、削除ノ分	
同	附	海軍砲射表	品名	削除ノ事	事項
冊	冊		數稱	數	量
		兵器簿定數全部			
		供用砲ニ對スル新射表ヲ供給次第 還納ノコト			
				四十口徑十二糎砲射表	冊
				五十口徑十糎高角砲射表	冊
				四十口徑八糎高角砲射表	冊
				四十口徑八糎砲射表	冊
				六糎、五糎、短五糎 五糎、短五糎高角 砲射表	冊

海軍公報

(部内限) 第千八百五十二號

海軍大臣官房

昭和九年七月二十八日(土)

○令 達

官房機密第一七五八號

海軍工機學校教育綱領中左ノ通改正ス

昭和九年七月二十八日

海軍大臣

内令
要登
執

(限 内 部)

第三條 高等科學生ノ教育ハ機關長トシテ其ノ職務ヲ遂行スルニ必要ナル學術技能ヲ修得セシムルヲ目的トス之ニ課スベキ科目左ノ如シ

一 機關術

「タルビン」機械、内火機械、罐、補助機械、機關配備、機關効程

二 電機術

直流機、交流機、電池、電力應用裝置、配電裝置、電機工業

三 工術

金屬工業、木具工業、應用工作、潜水術

四 材料學

造船材料、造兵材料、造機材料

五 兵器學及造船學

砲熗、水雷、航空機、造船學其ノ他ニ關シ職務上須知ノ事項

六 戰務

機關要務、工作要務

七 普通學

數學、理化學

第四條 特修科學生タル機關科將校ノ教育ハ學生ヲシテ機關術及工術ニ關スル學術技能ヲ修得セシメ任務遂行上遺骸ナカラシムルヲ目的トス故ニ校長ハ學生ノ官等、素養、經歷ニ鑑ミ適當ノ教程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ其ノ教育ヲ實施スベシ

第五條中「普通科學生及練習生教程ノ科目ヲ取捨シテ」ヲ削ル

(内令提要卷一、三四〇頁参照)

海軍公報(部内限) 第千八百五十二號

昭和九年七月二十八日

四一一

1430

官房第三三七六號
 本年大演習中之ニ參加スル艦船ノ乗員又ハ特設部隊ニ
 勤務スル者ニハ左記ニ依リ糧食品ノ換給ヲ爲スコトヲ
 得
 昭和九年七月二十八日

海軍大臣

糧食品換給表

規定品種	量額	換給品種	量額	記	事
生野菜	五〇	豆腐ノ素	一七〇	各艦船、特設部隊ニ一回以内ノ 割ニテ要求ニ應ジ各海軍軍需部（舞 鶴要港部軍需部ヲ含ム以下同）ヨリ 供給ス	
白餅	四〇	餅ノ素	三〇〇	潜水艦ニ對シ一旬一回以内ノ割ニテ 要求ニ應ジ各海軍軍需部ヨリ供給ス	
	又ハ	白玉粉	二〇〇		

本號ニ依リ換給ヲ行ヒタル艦船部隊ノ所轄長ハ其ノ成
 績竝ニ所見ヲ昭和九年十一月十日迄ニ海軍省軍需局長
 ニ通報スルト共ニ寫一通ヲ各海軍軍需部及舞鶴要港部
 軍需部ニ送付スベシ

官房機密第一七五九號
 昭和九年海軍大演習特設部隊中第一防備隊（特務艇ヲ

含ム）、第一通信隊、第一航空隊、第二航空隊及第三
 航空隊ニ要スル兵備品ハ佐世保鎮守府所管兵備品會計
 官吏之ヲ供給スルモノトス
 昭和九年七月二十八日

海軍大臣

○辭令

海軍少佐 澄川 道男
 滿洲國へ出張ヲ命ス（海軍省）
 海軍豫備少尉 寺 本 巖
 （各通） 同 大内 修助
 昭和九年海軍大演習部隊編成中第一防備隊附被仰付
 （三十七日同）

(限 内 部)

海軍公報(部内限)號外

海軍大臣官房

昭和九年七月二十八日(土)

○ 令 達

官房第三三五八號

艦營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和九年七月二十八日

海軍大臣

砲術長主管

艦船部隊名	種類	品名	數量	備品第十四類			試 驗 板	記 事
				本主管	他主管	合計		
長門型、扶桑型、伊勢型戰艦			四五	五八一〇三	二八	三〇	五八	
金剛型戰艦			四五	五一九六	二六	二五	五一	
練習戰艦			四〇	五三九三	二八	二五	五三	
					航海長	機關長	合計	

海軍公報(部内限)號外

嚴島	對馬	海防艦 (吾妻、日進、對馬) ヲ除ク 常磐	大鯨	迅鯨、長鯨	駒橋	韓崎	水上機母艦	鳳翔	龍驤	加賀、赤城	天龍、龍田、夕張	二等巡洋艦 (平戸、矢矧、天龍、龍田) ヲ除ク	妙高型、高雄型巡洋艦	古鷹型、青葉型巡洋艦
八	七	一三	一二	一二	八	八	一〇	一二	二五	四〇	一〇	一二	三〇	二五
一一	一五	一九	二五	二四	八	一一	五	二八	三一	四六	一八	二三	三七	三〇
一九	二三	三一	三七	三六	一六	一九	一五	四〇	五六	八六	二八	三五	六七	五五
七	九	一三	一五	一四	四	七	五	一三	一六	一六	一〇	一三	一七	一五
四	六	六	一〇	一〇	四	四		一五	一五	三〇	八	一〇	二〇	一五
一一	一五	一九	二五	二四	八	一一	五	二八	三一	四六	一八	二三	三七	三〇

勝力、白鷺、八重山	八	一〇	一八	六	四	一〇
砲艦(波、安宅ヲ除ク)	五	三	八	三		三
淀	七	一〇	一七	六	四	一〇
安宅	五	四	九	四		四
吹雪型(深雪ヲ、初春型驅逐艦除ク)	七	一〇	一七	五	五	一〇
浦風、峯風型、神風型、睦月型驅逐艦	五	九	一四	五	四	九
二等驅逐艦(椿、樺、梨、竹ヲ除ク)	四	六	一〇	三	三	六
水雷艇	七〇	一九	八九	一九		一九
海兵團	二〇		二〇			
防備隊	一〇		一〇			
臨時防備隊	三〇		三〇			
横須賀、館山各海軍航空隊	二〇		二〇			
横須賀海軍航空隊豫科練習部	五〇		五〇			
霞ヶ浦海軍航空隊	一五		一五			
大湊、吳各海軍航空隊	二〇		二〇			
佐世保、佐伯、大村各海軍航空隊						

海軍公報(部内限) 號外

三

1434

記事 艦裝品及艦内製作ニ依ル各科現有ノ試験板ハ砲術長主管艦營需品備品ニ組替ヘ不足分ノミ供給スルモ
ノトス

航海長主管、機關長主管

砲術長主管ヨリ供給ヲ受クル備品試験板ノ定數ハ同主管他主管渡シノ數量ニ同ジ

1435

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百五十三號

海軍大臣官房

昭和九年七月三十日(月)

○令 達

官房第一六七一號ノ一〇

昭和九年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和九年七月二十三日

歳出臨時部 海軍大臣

○通牒	款	項	目	節	解	疏	會計科目 電信略號
	水陸整備費	軍港雜設備費	吳軍港 雜設備費	建築費			レセ レス
	滿洲事 件費	滿洲事 件費	營繕費				ブイ

艦本機密第七三六二號

昭和九年七月二十一日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

艦船部隊備砲抑氣具、發火裝置、火門

管及補用品等現狀調査ニ關スル件依頼

首題ニ關シ別紙ノ通各工廠總務部長(工作部長)宛照

會致置キ候ニ就テハ之ガ調査ニ際シ可然便宜供與方取

計相成度

(別紙)

艦本機密第六九八一號

昭和九年七月十七日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、佐世保

工廠總務部長殿

舞鶴要港部工作部長殿

艦船部隊備砲抑氣具、發火裝置、火門

管及補用品等調査ニ關スル件照會

海軍公報(部内限) 第千八百五十三號 昭和九年七月三十日

四一三

1436

首題ニ關シ所屬艦船部隊各種砲ニ就キ左記現狀調査ノ
上昭和十年十二月迄ニ通報相成度但シ成ルベク在役海
上部隊ヲ先ニシ昭和十年三月迄ニ調査終了ノ分ニ對シ
第一回ノ通報ヲナスモノトシ第三艦隊所屬艦船ニ對シ
テハ内地歸投ノ時機ニ於テ調査通報ノコト
所要費用軍事費造船造兵及修理費造兵費修理(砲)一
般配付豫算内支辨トス

記

一、抑氣具

(イ) 修理ヲ要スルモノノ數量、修理ノ程度及之ガ概略
豫量(艦種砲別合計)

(ロ) 全部新製交換ヲ要スルモノノ數量

(ハ) 舊式抑氣具ヲ有スルモノノ數量

二、發火裝置

(イ) 修理ヲ要スルモノノ數量、修理ノ程度及之ガ概略
豫量(艦種砲別合計)

(ロ) 全部新製交換ヲ要スルモノノ數量

三、火門管

火管室不良ノ爲メ火門管換裝ヲ要スルモノノ數量

四、砲身砲架關係各種補用品

(イ) 嵌合又ハ交換裝備不可能ナルモノノ數量及之ニ對

スル修理概略豫量

(ロ) 全部新製交換ヲ要スルモノノ種類及數量

五、發動機、電動機類

(イ) 修理ヲ要スルモノノ種類、數量、程度及之ニ對ス
ル修理概略豫量

(ロ) 全部新製交換ヲ要スルモノノ種類及數量

○ 辭 令

○ 昭和九年海軍大演習部隊編成中左ノ通被仰付

第三航空隊附 海軍軍醫中尉 松岡 知之

同 新堀 馨

第一航空隊附兼第二航空隊附(以上^{七月}_{三十日}海軍省)

○ 雜 款

○ 艦隊通信艦(艇) 便變更(七月^{九日}_{本欄參照})

宿毛、佐伯間通信艇八月八日ノ便ハ八月七日ニ變更
セリ

1437

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百五十四號

海軍大臣官房

昭和九年七月三十一日(火)

○令 達

官房第三四一〇號

艦警需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和九年七月三十一日

海軍大臣

機 關 長 主 管

○通 牒

潛 水 艦	艦名	類別	消耗品第二類
	數稱	品名	主二次電池記錄
四〇〇	本 主 管	枚	記 事

教育第五〇號ノ二三

昭和九年七月二十八日

海軍省 教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料

ノ件通知

昭和九年七月第二十三回無線電信遠距離受信檢定信文

送信要目左記ノ通

記

信文	伊號第六十五潛水艦	送信
番號	送 信 日 時	速度(分間)
一	七月十九日 午後一時三十分	七九
二	同 一時六分	七九
三	同 一時十二分	八〇
四	同 一時十五分	七八
		本文七語三字母「W」ヲ「U」ニシテ同十語一字母「U」ヲ「元」

海軍公報(部内限) 第千八百五十四號 昭和九年七月三十一日

四一五

五同	一時二十分	八〇	本文二語一字目「T」 元字
六同	一時二十四分	八二	本文三語一字目「F」 ヲ「R」ト送信ス
七同	一時二十七分	八四	
八同	一時三十分	八三	本文九語二字目「S」 ヲ「O」ト送信ス
九同	一時三十四分	八三	
一〇同	一時三十七分	八二	
一一同	一時四十分	八三	本文一語三字目「K」 ヲ「L」ト送信ス
一二同	一時四十三分	八二	
一三同	一時四十八分	八三	
一四同	一時五十一分	八三	
一五同	一時五十四分	八四	
一六同	一時五十七分	八五	
備考	一、送信状態 良好		

<p>經給第四九號 昭和九年七月二十日 海軍省 經理局</p> <p>關係各應御中 艦隊司令長官特別俸ニ關スル件通牒 首題ニ關シ昭和八年經給第三五號ヲ以テ通牒ノ處第四 艦隊司令長官ニハ特別俸支給ノコトニ定メラレ候</p>	<p>○ 辭 令</p> <p>海軍豫備少尉 佐藤 忠夫</p> <p>右勤務召集ヲ解除ス(七七海軍省)</p> <p>海軍豫備少尉 西村 光彦</p> <p>(各通)</p> <p>同 松村 政彦</p> <p>同 嘉村 政彦</p> <p>右勤務召集ヲ解除ス(七八同)</p> <p>海軍豫備少尉 久保 清</p> <p>同 水谷 時彌</p> <p>同 奥山 秀雄</p> <p>同 八島 海男</p> <p>同 園田 貢</p>
--	--

1439

<p>(各通)</p> <p>海軍豫備機關少尉 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同</p> <p>山本 宗次郎 宇野 文雄 鈴木 晋二 五島 秀雄 河西 喜義 森 二郎 畑 駿三郎 遠藤 嘉一 田所 清春 柿沼 直藏</p>	<p>右勤務召集ヲ解除ス(十九日同)</p> <p>海軍豫備少尉 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同</p> <p>田島 太郎 大木 武雄 長澤 七郎</p>	<p>(各通)</p> <p>海軍豫備機關少尉 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同</p> <p>石庭 直治 澁谷 政光 福島 榮一 二宮 喜代司 福井 秋雄</p>	<p>(各通)</p> <p>同 同</p> <p>渡邊 文一 津高 彌治郎 湯佐 泰明 梅香 三郎 森口 誠 有田 清藏 白石 曾男二 田邊 篤太郎</p>	<p>右勤務召集ヲ解除ス</p> <p>同 同 同 同 同 同 同 同 同 同</p> <p>竹島 健市 龜山 健次</p>	<p>○雜款</p> <p>○第十八潜水隊(伊五三、伊五四、伊五五)行動豫定</p> <p>地名 着</p> <p>神戶 七月三十一日 吳 伯 七月三十一日 佐 伯 八月三日</p> <p>○郵便物發送先</p> <p>八月二日</p>
--	---	---	---	--	--

海軍公報(部内限) 第千八百五十四號 昭和九年七月三十一日 四一七

第一根據地隊司令部、第一防備隊司令部、軍艦常磐、白鷹、第一掃海隊(掃一、掃二、掃三、掃四、掃五、掃六)、特務艇夏島、猿島宛

當分ノ間

佐世保郵便局氣付

第三航空隊宛

八月 五 日迄ニ到達見込ノモノハ

佐世保郵便局氣付

其ノ後ハ

鹿兒島郵便局氣付

第一通信隊(第一方位測定管制所、第一、第二方位測定所ヲ含ム)宛

八月 五 日迄ニ到達見込ノモノハ

佐世保郵便局氣付

其ノ後ハ

門司郵便局氣付

但シ第二方位測定所宛ハ 鹿兒島郵便局氣付

第十一掃海隊(掃一三、掃一四)宛

鹿兒島郵便局氣付

自今

第一號、第二號驅潜艇宛

横須賀郵便局氣付

當分ノ間

第十八潜水隊(伊五三、伊五四、伊五五)宛

八月 一 日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

其ノ後ハ 第三潜水隊司令部ニ同ジ

○當隊八月十三日未明伊勢灣發ノ豫定ニ付委員、見學者ハ十二日中ニ乘艦サレ度

(聯合艦隊副官)